

カトリック 仙台教区報

2001年6月20日 No.140

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12

Tel (022)222-7371 Fax(022)222-7378

不思議な言葉

仙台教区 司教 溝部 脩

聖霊降臨の日に「炎のような舌」が現れ、使徒たちの上に下ったとあります。この「火」は新しい言葉を意味しています。コリントの書簡では、これを「不思議な言葉」として説明しています（コリント前14章）、それは「人間に対して話すのではなく、神に対して話すのです」と説明

を加えています。神様としつかりと対話する人の言葉は、他の国の言葉を話す人に自分の国の言葉で聞くことができるようになったのです。神様としつかりと対話しないで、自分のことばかりを幾らその国の言葉でしゃべっても、決して理解しあわないものなのです。まず最初にすることは、神様との深い交わりに生きることです。それなくして、徒に活動に奔走しているのは疲れるだけの空回りの生活です。不思議な言葉を話す人は、自身自身を信仰者として造り上げてます（14・4）といわれている通りです。

最近よく私の指針をはつきり示して下さいと頼まれます。私は多くの機構改革的指針より、まず最初に打ち出したいのは、霊的生活の向上です。教区民のひとりひとりが真剣に祈り、そこから自分を「信仰者として造り上げ」、自分の言葉を持つことです。神様としつかりと出会った人は、人々に伝わる言葉を発することができません。祈りのない宗教など考えられません。同様に祈りに満たされていない聖堂も考えられません。

毎日の生活の中でしつかりと祈りの時間を確保しましょう。朝、神様に自分を捧げ、夕べ、神様に一日の出来事のために感謝し、週の初めを神様に捧げられた日としてまいりましょう。

聖霊は私たちの上に溢れる程注いでいます。それに答えればよいのです。

《不思議な言葉》 切り絵

作 佐藤勇次

最近よく私の指針をはつきり示して下さいと頼まれます。私は多くの機構改革的指針より、まず最初に打ち出したいのは、霊的生活の向上です。教区民のひとりひとりが真剣に祈り、そこから自分を「信仰者として

今年一月に仙台市・八木山教会が焼失したことは記憶に新しいが、その後の取り組みについて見ていると、社会の動きと連動してきたよう感じがする。信徒が各地域の教会と強く結びついて信仰生活を送っているのは当然だが、教会が焼けたとか建て直すということになれば自分の家を建てるような気になって協力する。ところがこの度の八木山のケースは司教の問題提起によって新たな展開を見せ始めている。信徒は所属の教会に帰属する心の拠り所としてだけではなく、まだ教会の存在を知らない人々にも開かれているということに共同体全体が気づき始めた。住宅地の拡大や交通網の整理などを視野に入れた発想が自分の教会を何とかしようということと同じレベルで考えられつつあるらしい。司祭が常駐しないミサがない求道者がいないと言った指摘は信徒が地域教会と固く結ばれた考え方に起因する。八木山は待っているだけでなく動いて大きくなるようにしているように見える。（守）

生命の泉

今年一月に仙台市・八木山教会が焼失したことは記憶に新しいが、その後の取り組みについて見ていると、社会の動きと連動してきたよう感じがする。信徒が各地域の教会と強く結びついて信仰生活を送っているのは当然だが、教会が焼けたとか建て直すということになれば自分の家を建てるような気になって協力する。ところがこの度の八木山のケースは司教の問題提起によって新たな展開を見せ始めている。信徒は所属の教会に帰属する心の拠り所としてだけではなく、まだ教会の存在を知らない人々にも開かれているということに共同体全体が気づき始めた。住宅地の拡大や交通網の整理などを視野に入れた発想が自分の教会を何とかしようということと同じレベルで考えられつつあるらしい。司祭が常駐しないミサがない求道者がいないと言った指摘は信徒が地域教会と固く結ばれた考え方に起因する。八木山は待っているだけでなく動いて大きくなるようにしているように見える。（守）



青森 八戸地区

塩町・鯨の二つの教会を、土井文雄師、プロドール師の二人が担当している。恵まれた地区といえる。久慈市のトマ師の病気の為、土井師が毎日曜日午後三時からミサを捧げに行っている。車で片道一時間二〇分ぐらいの道のりである。師は何も言わないがご苦勞な事と筆者は思っている。現在、久慈教会に所属している高橋氏が、塩町に籍を置いている際始めた喫茶店「シャローム」は、今でも続いており、ミサ後の憩いの場・交流の場となっている。

塩町教会に關係ある方の嫁さんの出身が「奄美大島」の為、枝の主日に使用する「棕櫚の葉」を毎年、奄美から二百枚位送ってくる。四〇糶位の形の良い可愛い棕櫚の葉は大変好評である。會計からの支出・バザーの益金・手作りケーキの益金等を「八戸カリタス」という部署に集め、そこから、援助金の支出等助け合いのために役立たせている。(藤村)



各地から

宮城 県南地区

二年前のこと、県南四教会合同の野外ミサが亘理町荒浜海岸公園で行われた。風薫る五月の第五主日だった。五人ほどの中に信徒の奥さんに勧められて参加したSさんという七〇才近いご主人がいた。ハムが趣味で、世界中の人と交信できる楽しさを、熱く話してくれた。しかし、Sさんはその時すでに胃がんに侵されていた。優しく手引き

岩手 水沢教会 5月二七日

後藤寿庵祭が行われました。共同司式は溝部司教他七人の司祭。水沢市長をはじめ、寿庵ゆかりの地に関わりのある地元の方々をはじめ、県内外から二百人位の信徒が集まり盛大でした。大船渡教会山浦玄嗣氏の作・演出による「チンメアロの花」が五月二七日盛岡劇場にて上演された。ハンセン病を扱った気仙語による演劇であったが立ち見の人もでるほどの盛況でした。

していた奥さんの計らいで二カ月ほど前に受洗し、病者の秘跡を受けて永眠した。母親と兄弟数人、娘一人と娘婿に孫二人、皆未受洗者だったが、奥さんは仙台のミッシヨンスクール出身。町の葬儀場でカトリックの葬儀を行い、最近自宅で四九日の命日祭を終えた。そして、お寺の墓地にカトリックの墓石を建てる計画を進めている。(渡辺昭)

二戸教会 受洗者は出る

が、小さな町故に地元に着する信徒は少ない。シュトルム神父様が赴任して四三年目を迎えますが、二組目の結婚式が五月一六日にありました。前の結婚式は何時であったか、神父様は記憶にないというほど珍しいことでした。盛岡地区教会 四月から盛岡地区の三教会は共同宣教司牧になり、新しい司祭の歓迎会が六月三日に行われました。当日は、三教会合同のミサを四ツ家教会で行い、ミサ後和気あいあいの雰囲気の中で祝賀会が行われました。ペトロ関

谷義樹さん(サレジオ会)の助祭叙階式が、出身教会である四ツ家教会で行われます。若い人に召命について考えるチャンスになればとの溝部司教様の計らいによって実現しました。祝賀会は若者を中心にしたヤング・フェスティバルが計画されています。(梅津)



福島 会津地区 会津若松

教会で八年間信徒会長を務めた須藤典夫さんが重任を退き、新たに品川満紀さんが就任されました。品川さんはホスピス問題などの社会福祉専門の先生であり、教会内外で活躍されています。何か新しい風が吹く予感が致します。

新たにティビ神父様が会津地区に赴任されました。会津若松教会初見参になった御ミサでは、ユーモアを交えながらも、身振り手振りの気迫あふれるお説教に皆感動し、日本語も何ら問題なく、気品あふれるマヤ人特有のお顔立ちと華麗なラテンステップで信徒の心をつかんだようです。また、バスケットボールチーム「ティビーズ」が発足し、磐梯ダルクさんとの交流試合を行ったところ。典礼部での新しい試みとして、合同インターナショナルマス(日本語、英語、タガログ語)が行われます。(山田)





ガダルカナル、カタル

小松 史朗 神父

ガダルカナル、イマ

南の島……。真っ青な空と海……。肌を刺すような陽射し……。風に揺れる椰子の葉……。心優しく、遅しく、そして底抜けに明るい人々……。

村の教会の鐘が鳴る。教会の鐘にしては少し違和感のある鐘が鳴った。村人が集まり、そしてミサが始まった。歌声は力強く、それでいて透きとおったハーモニーを奏でていく。お互いの笑顔が島の人々

と異国からの我々との距離を少しずつ埋めていく。祭壇の前に立ちふと燭台に目を落とすと、燭台に使われていたそれは、よく磨いてはあるが紛れもなく薬きょうである。自分の中で消化しきれない思いの中でミサは続く。ガダルカナル、ムカシ

そう、半世紀前にこの島は大東亜戦争の激戦の舞台になったのだ。

島に日本軍が造った小さな飛行場をめぐって争奪戦が繰り広げられた。この戦いで日米双方二万人強の尊い命がこの島で失われた。しかし、公表されている数字の中には、この戦いに巻き込まれた島の人々のかけがえのない命は含まれていない。歴史の中に葬られていく誰も知らない命の数。いや、この人々にとっては決して忘れることの出来ない悲しみであり、やるせない思いなのだ。日米双方の戦没者慰霊碑に足を運び、歴史観の違いに驚

かされる。勝者アメリカのそれは、慰霊碑と言うよりも、記録碑。この島で起こったことを克明に記し、歴史を教訓とする姿勢が感じられる。しかし、今のアメリカで教訓になっっているのは、歴史を繰り返さないというより、勝つための戦闘とは何か？であることが残念でならない。勿論これは私の思い過ごしかも知れないが……。



敗者日本のそれは、草が生い茂る中、ひっそりと建っていた。碑に刻まれているのは、「日本兵この地に眠る、安らかに憩わんことを」のような言葉だったと思う。我々日本人にとって歴史は学ぶものよ

りも思うもの……。戦後六十年経った今、自国の都合の為に踏み躪ってきた他の国々の人々への補償は為されていないし、教科書の問題も未だに解決を見ないのは、歴史を教訓とする姿勢の乏しさからなのであろう。さて、この島の方々の慰霊碑は何処にあるのか？ここでもまた歴史の中に葬られていく事実が見え隠れする。何時の時代でも、最も弱い立場の人々には、慰めも与えられないという事実。

ガダルカナル、そして今

ミサ（非日常）も終わり、広場で村の人々とのミサ（日常）食事が始まった。バナナの葉を敷いただけのテーブルの上に決して豪華とは言えない食べ物並び、その周りに四十人余りの人々が車座になった。何を食べるかではない。誰とどんな状況で何を分かち合っただけの食事が（ミサ）をおいしく食べる大切な要素であることをあらためて教えられる。食事も終わり、海で泳ぐ。何処の国でも子供

が一番元気！ 笑顔。笑顔。

帰り支度のため聖堂に立ち寄る。何処となく違和感のある鐘に視線を落とすと、それは長さ1mはある不発弾だった。この鐘が新しく替わる日はいつだろうか？ いやここを訪れる人のためにこの鐘はこのままでいいのだ。こんなことを勝手に思いながら、共に生きるという観点から歴史を見るとき、今、私は何をやるのか？そんな疑問で頭が一杯になった。

ガダルカナルへの旅を終え、無事日本へ帰ってきたが、疑問の旅はまだ終わらない。



大船渡教会に赴任して

横島健二神父

過去二千年間、キリスト教はひたすら信徒数を増やし続けてきた。そして、ついにかつては陸の孤島と言われたここ大船渡の地でも一九五一年頃から布教活動がベトレム外国宣教会の神父様方によって始められた。そしてそれから丁度五十年を経て、この地に赴任することとなった。

日本の教会にとっても世界の教会にとっても、この五十年間は特別な意味を持つ半世紀のように思える。それまでは常に、少なくとも名簿上は数

私の気分転換

Sr 海老沢則子(オタワ会)

今日は、ひどく落ち込んでいます。いらいらしている。そんなとき私は、意識して気分転換のため、歩くようにしています。同じコースを歩いていても、必ず違う発見があるからとても楽しい。お寺の掲示板に目をとめてみたり、道端の石を拾ってみたり、草花

を増やしてきた教会だった。しかし、この五十年の間に、

伸び率は徐々に落ち、止まり、ついに減少に転じたのである。思うに教会はそれまで何らかの仕方で迫害されつづけてきた。そして迫害されればされるほど強くなり数を増やしてきた。しかし、この五十年

の間に、教会に対する迫害は、ほとんど皆無に近いものとなった。このことと今、世界規模で進むキリスト諸教会の閉塞状況とは無関係ではないように思えて仕方がない。十字架上で亡くなられたナザレのイエスを主と仰ぐキリスト

を観察してみたり...

忙しくてゆとりがないと感じているときほど、こういう、ちょっとしたひと時に助けられることがよくあります。一見くだらない暇つぶしのような時間が、実は私にとって、とても貴重な役割を果たしてくれているのかもしれない。



者は、困難に対してはべらぼうな強さを発揮する。しかし

平穩を豊かに生きる術はいまだ学んでこなかったのかも知れない。ここ大船渡の地で、平穩無事な日々を生き活きと生き抜く信仰のあり方を、みなと探っていけたらと願っている。

活動紹介

仙台ダルク

ダルクは一九八五年メリノール会の協力の下、薬物依存者本人である近藤恒夫が東京都荒川区東日暮里で開設したのが始まりです。現在では全国二四ヶ所で活動を行っています。仙台ダルクは一九九六年七月カトリック仙台司教区の全面協力の下、宮城野区鶴ヶ谷で始まり、平成十二年四月には旧YBUカトリック文化センターをお借りして、活動を広げて参りました。社会の中で生まれた薬物依存症という「病」は、社会の中で回復を、というダルクの理念に、地域の皆様の理解と応援を受け、これからも活動を続けていきたいと思っています。今後ともご指導ご支援の程、よろしくお願い致します。神に感謝。

代表 飯室 勉

修道院紹介

ドミニコ会 雪の聖母修道院

祈りの会でありますので外部的な仕事は何も行つては居りません。ただ、研修会などでお集まりのための宿舎を提供して居ります。杉林の中で自然を相手にひっそりと暮らして居ります。早朝の祈りには鳥の声も一緒に、時にはセキレイなど窓辺に来て賛美を共にする事もあります。雪の聖母の名称にふさわしく一年の三分の一は雪の中で過して居ります。神様が下さる雪はどこもかしこも美しく粧って下さり、寒夜の月に照らし出された雪の中の修道院はクリスマスカードの様。その中で、修道女たちはそれぞれの仕事を果たし、祈り且つ働きの生活を送って居ります。

一月からの主な行事

- 1/7 大聖年開年ミサ
- 2/4 原町教会創立50周年
- 2/25 仙台大瀧川殉教祭
- 3/24 ~ 4/5 司教ローマへ
- 4/8 ~ 4/15 聖週間・復活祭
- 5/15 ~ 5/24 司教、Fr小松、木村神学生ソロモン諸島へ
- (木村神学生は約半年間滞在)
- 5/27 後藤寿庵祭(水沢)
- 6/3 米川キリシタン祭り
- 6/23 ペトロ関谷義樹助祭叙階式(四ツ家教会)

訃報

昨年十二月二六日、平教会主任司祭マリー・ガリエル・グローク神父様が帰天されました。八七歳でした。神父様は信徒や、地域の人たちから『おやじ』と慕われてい

編集後記

約半年ぶりの『教区報』をようやく皆様のお手元にお届けすることができホッとしておるところです。これからも各地からのさまざまなニュースを掲載していこうと考えています。ご協力お願い致します。(文)

召命黙想会へのお誘い

時 2001年8月25(土)~26(日)
シャルトル聖パウロ修道女会
盛岡第2修道院
講師 Sr.メリー・シロワ(ウルスラ会)
お問い合わせ先
聖ウルスラ修道会一本杉第2修道院
Sr.瀬戸 Tel 022 286 1525